

The World Citizen

令和元年2度 第1回学校評価保護者アンケートの結果と改善策について

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の休校措置のため、例年よりも遅い実施となりましたが、全校で700人(前年681)を超えるの保護者の方にご回答をいただきました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。アンケートの集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。お寄せいただいた貴重なご意見をもとに、日々の教育活動の工夫・改善に努めていきたいと考えております。第2回(令和3年1月実施予定)でも、ご回答いただけますと幸いです。

* 集計結果は、生徒・保護者の「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計割合(%)です。

評価項目		第1回集計結果		今後に向けての改善策
		前期	後期	
1	子どもは家庭や地域でも自分から進んであいさつをする。	87	82	「心を開いて相手とつながる」という挨拶の持つ意味や力を理解し、より多くの教師が生徒に声かけできるように、あらゆる場面でやっていく。
2	子どもは家庭で、学校での清掃活動の経験を生かしている。	66	57	相変わらず保護者による評価が低い。PTA行事や刊行物を通して、家庭における環境整備の重要性について、新型コロナやインフルエンザ等との関連から訴えたい。
3	子どもは学校が好きである。	91	82	感染症対策に配慮しつつ、引き続き学習活動の充実、行事等の工夫、生活環境の整備を図っていく。
4	子どもは英語や外国文化に興味がある。	87	82	実践的なコミュニケーション場面や課題解決型の活動を感染症対策と両立できるように工夫しつつ、国際的なコミュニケーション能力を高める。
5	イングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、海外修学旅行などにより、子どもの国際コミュニケーション能力は高まっている。	81	80	感染症対策を講じた上で、各学年において、授業と行事を関連付けながら、興味関心や意欲をさらに高められるように行事の改善や工夫をしていく。
6	学校は、授業や学校行事を通じて我が国の文化・伝統に触れる機会を設けている。	82	84	コロナ禍においても現在の取組を継続できるように、日本及び世界の文化・伝統と関連させた授業内容が、全ての教科で実施されるよう工夫する。
7	子どもたちには、確かな学力身につけている。	88	82	コロナ禍においても可能な限り協働学習を実践し、年2回実施する授業アンケートの結果を分析し、個々の生徒の理解度を正確に把握する。
8	英語や数学の少人数学級は生徒の学力向上に効果がある。	93	92	学校全体で少人数指導のメリットが最大限に生かせるように常に指導方法を見直すとともに、新型コロナウイルスの感染防止対策を施した授業を行う。
9	子どもは、自分なりの目標をもって学習に取り組んでいる。	85	87	感染症予防に留意し、課題探究的思考力・ディープアクティブラーニングによって生徒が生き生きと学ぶ授業をめざし、全職員が生徒の発達段階に応じた授業づくりにつとめる。
10	子どもは、毎日家庭学習に取り組む習慣が身についている。	75	80	すべての生徒が家庭における学びを充実させ、望ましい学習習慣を確立できる課題の課し方を、全校・各学年・各教科で検討し共有する。
11	子どもの様子から、子どもは先生との信頼関係が築けている。	87	84	全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「すべては生徒の成長(健全育成)のために」適切なタイミングで支援を行なう。
12	学校生活を通して、子どもはクラスの友人とよりよい人間関係を築いている。	93	89	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指していく。
13	子どもは自分の健康に留意して生活している。	81	81	新型コロナウイルスやインフルエンザの予防対策を中心とした健康行動の徹底を図るための指導を、教育活動全般を通してさらに充実させる。
14	子どもは、部活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	91	78	3年生から4年生にかけての部活動加入のスミーズな展開と4年次以降の部活動継続の声掛けを徹底するなど、現状の取組を維持する。
15	学校はいじめ防止に努め、いじめが発生した場合にも解消してくれた。	83	83	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、「いじめは何があっても許さない」という姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしていく。
16	子どもは、自己を理解したうえで将来の職業を選択しようと考えている。	82	88	臨時休校による未実施分を含め「主体的・対話的で深い学び」によって自己を理解し、協働学習によって自己有用感を向上させる指導を行う。(前期) 臨時休校による未実施分を含め、探究的な諸活動を通じて、自分自身が将来その解決に取り組みたいと考える社会的課題を設定する指導を行う。(後期)
17	子どもは、自分自身の進路に関する意識を有している。 (後期課程のみ)		91	臨時休校による未実施分を含め、課題解決に向けて、蓄積した学力を得点力に、さらに合格力に転化させ、第一志望校への現役合格を実現する指導を行う。
18	子どもの進路希望を理解している。	79	94	警戒度等の社会情勢を考慮しながら、可能であれば生徒・保護者がともに参加する進路講演会を実施し、家庭におけるキャリア観の構築を促す。
19	学校から、生徒・保護者に必要な進路情報の提供を受けている。	83	83	文理選択・科目選択をはじめ、学習方法や受験情報等の提供など、二者面談・三者面談における各生徒に対する個別指導を充実させる。
20	進路講演会や進路関連行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	83	87	警戒度等の社会情勢を考慮しながら、年間行事計画にしたがい、各学年段階にとって適切な内容の進路講演会・進路学習会を実施する。
21	学校のwebページには、新しい情報が定期的に載っている。	75	81	学校行事や授業に関する情報に加え、部活動やその予定、志願者に対する情報等をこまめに更新することを心掛けると共に、感染症対策に関する情報発信にも力を入れる。
22	保護者向け学校行事は、子どもの成長が伺える機会であり有益である。	90	86	関係各部との連携のもとより効果的な行事となるよう取組を深める。
23	学校は、適切に文書やメール等で連絡してくれる。	83	83	一斉メールの運用を適切に行うこと等により、保護者にとって有意義な情報が各部署から適切なタイミングで発信されるようにする。
24	学校はPTA(保護者)と連携し、奉仕活動などの地域活動を行っている。	75	77	参加者の安全安心を十分検討する上で交流活動を積極的に実施する。
25	交通安全教室や防災避難訓練は子どもの安全意識向上に役立っている。	90	90	コロナ禍において全校で交通安全教室を行うことはできなかったが、HR、学年集会、全校集会(放送)等で、「交通事故は命に関わり、常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導の柱とし、常々注意喚起をしていく。
26	学校の施設・設備は整備され、安全である。	84	81	生活安全、災害安全のための点検が形骸化しないよう、職員と生徒、両者の視点からしっかり実施する。

【自由記述欄の内容について】改善が必要と思われるものについては、鋭意前向きに取り組んでおります。第2回のアンケート実施後に、取組状況等についてお知らせ致します。